

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201546		
法人名	MS5有限会社		
事業所名	グループホーム スローライフ大谷	ユニット名	1ユニット
所在地	静岡県静岡市駿河区大谷2526-2		
自己評価作成日	平成22年10月5日	評価結果市町村受理日	平成23年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2274201546&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

駿河湾に近い立地である

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から5年余り経過したホームである。利用者一人ひとりの楽しみを見つけ出し大事にしてゆきたいという思いで、個々のペースに合わせた利用者本位のサービスに向け取り組んでいる。季節ごとに行事やリクリエーションを行い、暮らしに楽しみを持てるよう工夫している。愛犬「メロ」に癒され、のんびりと暮らす利用者の明るく穏やかな笑顔が見られ、職員の対応の良さが伺える。理念にある「笑いの絶えない楽しい我が家」家庭的で温かいホーム作りに今後も期待したい。また、災害時の支援や、ホーム行事への参加等を依頼するなど、更に地域との連携を図り双方向での交流が深まるように働きかけたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑いの絶えない楽しい我が家を理念とし、地域密着を、プラスしたいが、思惑どおりに、ならない。	「地域の人と一緒に、笑って遊べる楽しい我が家」をフロアの見やすい位置に掲示し、職員は理念を共有しながら明るく対応している。利用者の笑顔を引き出し自分らしい暮らしが出来るよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、地元の行事に参加しているが、一部に拒否されている。	自治会に加入し夏祭りや防災訓練に参加している。散歩で地域住民と挨拶を交わすなど日常的な関わりを大切にしている。小学校児童の職場訪問やボランティアの受け入れ等も、利用者の楽しみになっている。	ホームへの理解を深めるため、地域との協力体制の構築に向け更なる働きかけが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣近所の一部の人の中に、協力者が徐々に出来つつある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の開催は出来ているが、評価への取組みとはまだであるが、包括等の職員の参加は出来てきている。	2ヶ月に1回開催されている。民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表2名、管理者をメンバーとして、防災訓練・外部評価・ホームの現状報告等を行い、地域の情報をもらい利用者や地域の交流に役立っている。	出席者が固定されがちであるが、協力医や地域住民、ボランティア等に入ってもらい柔軟な意見の交換で話し合いが更に深まることを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出来ていないが、電話等では、相談している。	市や区の職員との電話での連絡や情報交換を行っている。市担当者の運営推進会議への参加はまだ無いが、管理者は良好な関係を築くよう努力をしている。	事業所の実情やケアサービスの取り組みをアピールして、連携が深められることが望まれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護を利用している入居者様がいて、権利擁護センターの方が月に1回程度施設を訪問されていて、わからない事があれば教えていただいている。電話でも相談等させていただいている。	玄関は利用者や来訪者が自由に出入りできるように開放され、利用者の自由な行動を見守るようにしている。職員も良く理解して身体拘束をしないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	契約時や解約時には、契約書を読んでいただき、わからない事があれば説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している入居者様がいる為、権利擁護センターの方が月に1回程度施設を訪問されていて、わからない事があれば教えていただいている。電話でも相談等させていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には、契約書を読んでいただき、わからない事があれば説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、利用者やその家族が、施設の代表者や職員、及び地域包括支援センター職員や民生委員へ意見や要望を表していただき、運営に反映させている。	運営推進会議・電話や来訪時等に何でも言ってもらえるような雰囲気大切に、良好なコミュニケーション作りに努めている。意見や要望は会議で報告・検討し運営に反映させている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度であるが、職員会議を開催し、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。	月一度職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は職員が意見を表明しやすいよう配慮し、意見や提案があれば対応を検討して、働きやすい職場の環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	交付金等と合わせて、会社からの昇給を、各職員の実績等を踏まえて、勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の開催であるが、介護技術の向上に向けての勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	駿河区のグループホームの人達の交流も出来ました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの雰囲気馴染めるようにレクリエーションを行うなど楽しく過ごせる環境づくりに配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時など、利用者様の生活の変化に応じたサービスの導入に家族共々に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今まで余り経験したことのない、サービス等も入れて、話しあっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを重点に話し合いを通じてお互いに理解し合える関係を築く努力がされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様へ御家族の面会時に、職員が話しの中に溶け込める様に、常にご家族、友人等が面会に来た時には、声かけする様に心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には、今までお付き合いをしていた、親戚知人の方の交流が今まで通りできる様に、お願いしている。	友人や親戚の来訪者も多く、近隣に住む人が立ち寄るなど自由に訪問できるよう配慮している。利用者は家族との外出や電話・文通の機会を楽しみにしており、職員が様々な形で支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各居室には、利用者が孤立しない様、テレビは置いてありません、常にリビング等で楽しく過ごせるように、心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状、暑中見舞いなど、連絡は心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの習慣や好み、暮らしぶりなど、今後の要望などを聞き取っている。職員間で情報を共有している。	事前の聞き取り情報を基に、声掛けと観察により色々な事を試し、利用者の意向を汲み取ろうとしている。ある職員は、他の職員と利用者の関わりを観察することにより、利用者の思いを汲み取ろうとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、暮らしてる家庭に訪問し、状況の確認、デイサービス等を利用してる人などには、その場所への、利用時の状況など、聞き取りしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の観察や職員間の意見交換の他に、毎日の介護記録からその人の一日の過ごし方・心身状態・有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となり、アセスメントを基に本人・家族・職員の話や介護記録を活用して、個別に具体的な介護計画を作成している。本人や家族の要望も把握し、それが反映されるように計画を策定している。	利用者と職員の日々の関わりの中で、利用者の現状を把握し、ベテラン職員とケアマネージャーが中心となり介護計画の見直しを定期的に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を毎日つけ、入居者様一人一人に行ったケアやその時の様子を職員誰もが分かるようにし、問題点が見つかれば今後の対応を話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人が体調が悪くなった時等は、いつものケアを変更し、安静にし回復できるようなケアを行っている。通院日に家族が体調が悪い時等は、職員が通院介助を代行する等、柔軟に支援やサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協が主宰しているS型デイサービスに、入居者様一名が通所させていただいている。地域包括センターの職員の方にボランティアを紹介していただき、障害により外出できない入居者様も楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回、医師が往診に来られ、大体の入居者様及び家族は納得し、職員が医師に御本人や家族の希望を伝え、医療や指導を受けている。納得されていないかたたり専門が違ふ場合は、家族が個々で他の病院に受診に行かれます。	利用者本人と家族希望のかかりつけ医となっており、職員がかかりつけ医への受診支援も行っている。ホームの協力医は週1回の往診を行っており、適切な医療を受けられる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に看護師も同行して来られるので、職員が情報や気づきを伝え、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族や病院関係者と、薬の事や病院での様子、退院が決まった時等、電話等で情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族から方針を聞けるようであれば聞き取り、まだ決まっていないうようなら、その時になってから今後の方針について話し合い、家族や医療関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りに関し、家族の希望を聞き家族の思いを叶えている。マニュアル等は無いものの、管理者は、家族の希望を叶える事に積極的であり、過去に看取りを行ったこともあり、協力医の支援も約束されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的に行っていないが、事務所に緊急時対応マニュアルがあり、いつでも閲覧できる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非避難訓練に参加している。	消防署の指導の下、年2回の避難訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加はしているが、避難に関し地域住民の協力が仰げていない。	災害避難に関し、地域住民の協力は不可欠である。運営推進会議等を活用し、地域へ協力の声掛けがなされる事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者のいままでの暮らし方、生き方を尊重しながら、尊厳に配慮し、温かみのある声かけや、接し方をしている。	職員が利用者の尊厳を傷つけるような対応は見受けられなかった。利用者の呼称も、利用者家族の同意を得て、「さん」「ちゃん」付けと色々で呼ばれており、家庭的な雰囲気であった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝起きて、利用者の状態をみて、今日してみたい事などを聞きとりまして、本人の思いや希望に添えるん要るし支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日様子で決めているが、生活のリズムと合わせて、押し付けにならないように、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者には、毎日好きな服を選ばせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決める時には、利用者の希望を取り入れるようにしている、簡単な下ごしらえや片付けなど、楽しくお手伝いができる様支援している。	利用者の希望を取り入れた職員手作りの食事を、利用者と職員が同じテーブルを囲み、一緒に食べている。「うあ、これ、しょっぱいね。残したほうがいいよ。」等と会話は盛り上がり、利用者が片付けを手伝う姿も見受けられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の開始時間は決まってるが、摂取時間は、ゆったりと出来る様に時間を決めずに、十分に食事の量と、水分が取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人で、歯磨きが出来ない人には、ガーゼ等を使って、毎食後に口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハパンなどを使用している利用者にも、利用者ごとの排尿時間の間隔を見つけ出して、トイレ誘導が出来るよう支援している。	利用者それぞれの排尿頻度を把握し、声掛けを行いトイレ誘導をすることにより、できるだけ排泄介護用品の使用が減るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者各自の便秘対策は、薬も大事ですが、食べ物、飲み物の工夫をしたり、体操などを取り入れて、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望もありますが、利用者にあったタイミングを見て対応している。	浴室は清潔に保たれており、利用者の希望があれば毎日の入浴も可能である。基本的には、2日に1回の入浴となっており、入浴の間隔があかないよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者ごとの習慣に合わせていますが、なるべく昼寝ができる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員がしていますが、主治医と薬剤師と連携をとりながら、副作用とかについても注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単なトランプなど誰でも出来るような事をします、そうしますと、今まで興味をしめさなかった利用者も参加してきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者には、カラオケの日を作って外出して、カラオケボックスに行ったりします、家族も誘ったりもします。	日々の散歩を管理者は職員に推奨している。花見のため日本平にドライブ、カラオケボックスに利用者と家族を伴って出掛けたり、利用者希望の近隣のスーパーマーケットに買い物と、外出支援に怠りは無い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、ほとんどの利用者は、所持していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者がいれば、電話、手紙はできる様支援している、一部の利用者は、管理者経由で、家族に利用者の気持ちを伝えて、家族から利用者に連絡を入れるように、して頂いてる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花を生けたり、なるべく自然環境の中で生活が出来るよう支援しているが、今年の暑さでは何も出来ませんでした。	廊下の壁には、利用者作成の塗り絵等がさりげなく掛けてあり、ちょっとしたカウンターに、季節の草花が飾られている。日当たりの良い居間で利用者はくつろいでいる。	日当たりの良い居間は、利用者皆のくつろぎの場となってはいるが、床の掃除がやや行き届かないようである。今一層の清掃が行われる事を望む。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間権食堂はテーブル、テレビが置かれ、テレビの前には、ソファも置かれ利用者がいつでも横になれたりして、リラックス出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みの物を家族と相談して、自由に持ち込んで、落ち着いて過ごせるように、支援している。	利用者の居室には、自宅で使っていたと思われる筆筒が持ち込まれていたり、別の利用者の部屋には仏壇がそなえられていたり利用者や家族の思い思いに居室が彩られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が解らない人には、ドアに名前を書いたり、トイレ表示をしたりして、自立出来る様支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201546		
法人名	MS5有限会社		
事業所名	グループホーム スローライフ大谷	ユニット名	2ユニット
所在地	静岡県静岡市駿河区大谷2526-2		
自己評価作成日	平成22年10月5日	評価結果市町村受理日	平成23年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2274201546&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの2階からは、「青く澄んで穏やかな海」「時には荒々しく海が動いているように見える」駿河湾が見えます。外に出て、散歩して1分、雨上がりの時など空気が澄んでいる時などには、左には、伊豆半島、右には、大崩海岸から、御前崎まで、暮らして人々が見えるくらい驚くほど綺麗に見えるんです、皆様も一度見に来て下さい。ホーム内での利用者様の日々の暮らしぶりは、店名でもありますように、利用者の皆様方には、「こんなにゆとりがあっていいの」と思わせる位、ゆったりと時間が過ぎて行く様な生活体験をして頂いております、そんな中でも毎日楽しく笑いが絶えない日々を楽しんでいただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑いの絶えない楽しい我が家を理念とし、地域密着を、プラスしたいが、思惑どおりに、ならない。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、地元の行事に参加しているが、一部に拒否されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣近所の一部の人の中に、協力者が徐々に出来つつある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自分の居室が解らない人には、ドアに名前を書いたり、トイレ表示をしたりして、自立出来る様支援している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出来ていないが、電話等では、相談している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護を利用している入居者様がいる為、権利擁護センターの方が月に1回程度施設を訪問されていて、わからない事があれば教えていただいている。電話でも相談等させていただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	契約時や解約時には、契約書を読んでいただき、わからない事があれば説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、利用者やその家族が、施設の代表者や職員、及び地域包括支援センター職員や民生委員へ意見や要望を表していただき、運営に反映させている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	月に一度であるが、職員会議を開催し、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	交付金等と合わせて、会社からの昇給を、各職員の実績等を踏まえて、勤めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の開催であるが、介護技術の向上に向けての勉強会を開催している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	駿河区のグループホームの人達の交流も出来ました。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の開催であるが、介護技術の向上に向けての勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	駿河区のグループホームの人達の交流も出来ました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームの雰囲気馴染めるようにレクリエーションを行うなど楽しく過ごせる環境づくりに配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時など、利用者様の生活の変化に応じたサービスの導入に家族共々に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今まで余り経験したことのない、サービス等も入れて、話しあっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とのコミュニケーションを重点に話し合いを通じてお互いに理解し合える関係を築く努力がされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様へ御家族の面会時に、職員が話しの中に溶け込める様に、常にご家族、友人等が面会に来た時には、声かけする様に心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には、今までお付き合いをしていた、親戚知人の方の交流が今まで通りできる様に、お願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各居室には、利用者が孤立しない様、テレビは置いてありません。常にリビング等で楽しく過ごせるように、心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状、暑中見舞いなど、連絡は心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの習慣や好み、暮らしぶりなど、今後の要望などを聞き取っている。職員間で情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、暮らしている家庭に訪問し、状況の確認、デイサービス等を利用している人などには、その場所への、利用時の状況など、聞き取りしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の観察や職員間の意見交換の他に、毎日の介護記録からその人の一日の過ごし方・心身状態・有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となり、アセスメントを基に本人・家族・職員の話や介護記録を活用して、個別に具体的な介護計画を作成している。本人や家族の要望も把握し、それが反映されるように計画を策定している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を毎日つけ、入居者様一人一人に行ったケアやその時の様子を職員誰もが分かるようにし、問題点が見つかれば今後の対応を話し合い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人が体調が悪くなった時等は、いつものケアを変更し、安静にし回復できるようなケアを行っている。通院日に家族が体調が悪い時等は、職員が通院介助を代行する等、柔軟に支援やサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協が主宰しているS型デイサービスに、入居者様一名が通所させていただいている。地域包括センターの職員の方にボランティアを紹介していただき、障害により外出できない入居者様も楽しめるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週一回、医師が往診に来られ、大体の入居者様及び家族は納得し、職員が医師に御本人や家族の希望を伝え、医療や指導を受けている。納得されていないかたたり専門が違う場合は、家族が個々で他の病院に受診に行かせる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時に看護師も同行して来られるので、職員が情報や気づきを伝え、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族や病院関係者と、薬の事や病院での様子、退院が決まった時等、電話等で情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で家族から方針を聞けるようであれば聞き取り、まだ決まっていないうなら、その時になってから今後の方針について話し合い、家族や医療関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的に行っていないが、事務所に緊急時対応マニュアルがあり、いつでも閲覧できる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難訓練に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者のいままでの暮らし方、生き方を尊重しながら、尊厳に配慮し、温かみのある声かけや、接し方をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝起きて、利用者の状態をみて、今日してみたい事などを聞きとりまして、本人の思いや希望に添える必要なし支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日様子で決めているが、生活のリズムと合わせて、押し付けにならないように、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者には、毎日好きな服を選ばせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決める時には、利用者の希望を取り入れるようにしている、簡単な下ごしらえや片付けなど、楽しくお手伝いができる様支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の開始時間は決まっているが、摂取時間は、ゆったりと出来る様に時間を決めずに、十分に食事の量と、水分が取れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人で、歯磨きが出来ない人には、ガーゼ等を使って、毎食後に口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハパンなどを使用している利用者にも、利用者ごとの排尿時間の間隔を見つけ出して、トイレ誘導が出来るよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者各自の便秘対策は、薬も大事ですが、食べ物、飲み物の工夫をしたり、体操などを取り入れて、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望もありますが、利用者にあったタイミングを見て対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者ごとの習慣に合わせていますが、なるべく昼寝ができる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は職員がしていますが、主治医と薬剤師と連携をとりながら、副作用とかにいつも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単なトランプなど誰でも出来るような事をします、そうしますと、今まで興味をしめさなかった利用者も参加してきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者には、カラオケの日を作って外出して、カラオケボックスに行ったりします、家族も誘ったりもします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は、ほとんどの利用者は、所持していません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者がいれば、電話、手紙はできる様支援している、一部の利用者は、管理者経由で、家族に利用者の気持ちを伝えて、家族から利用者に連絡を入れるように、して頂いてる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花を生けたり、なるべく自然環境の中で生活が出来るよう支援しているが、今年の暑さでは何も出来ませんでした。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間権食堂はテーブル、テレビが置かれ、テレビの前には、ソファーも置かれ利用者がいつでも横になれたりして、リラックス出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みの物を家族と相談して、自由に持ち込んで、落ち着いて過ごせるように、支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が解らない人には、ドアに名前を書いたり、トイレ表示をしたりして、自立出来る様支援している。		